

株式会社アーレスティ

2013年3月期 第3四半期 決算説明資料



2013年2月7日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2013年3月期第3四半期決算概況及び今期見通しについて

■2012年

- 4月 合肥アーレスティ加工工場完成
- 5月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事着工
- 10月 アーレスティメヒカーナ鋳造、加工工場拡張工事竣工
- 12月 合肥アーレスティ拡張工事着工(竣工2013年5月予定)
隣接預留地20,500㎡を取得

■2013年

- 1月 アーレスティメヒカーナ金型工場拡張工事竣工
- 4月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事竣工予定

アーレスティメヒカーナ工場拡張

Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

■鋳造工場、加工工場を拡張

2012年3月着工
10月竣工

2013年2月現在

(工場面積) 土地 100,000㎡ 建屋 32,200㎡

※内、増築面積:鋳造工場・加工工場2,600㎡、金型工場1,200㎡

■金型工場を拡張

2012年6月着工
2013年1月竣工

(鋳造能力) 月産 2100t(DCマシン 21台)

※内、増強能力 月産400t(DCマシン 4台)

(機械加工ライン) 25ライン ※現在22ライン稼動



金型工場拡張エリア



加工工場拡張エリア

金型工場拡張エリア

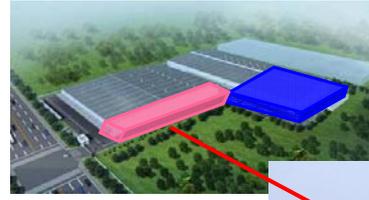
鋳造工場拡張エリア

拡張工事完成図

合肥アーレスティ工場拡張

合肥阿雷斯提汽车配件有限公司

- 2010年 8月 合肥アーレスティ設立
- 2011年 7月 稼働開始
- 2011年10月 第2期工事(加工工場)着工
- 2012年 4月 加工工場完成
- 2012年12月 第3期工事着工
- 2013年 5月頃 // 竣工予定



第3期工事箇所



第3期工事の様子(加工工場・倉庫)

2013年5月にかけて
(工場面積)

土地 50,500㎡
建屋面積 21,700㎡
(鑄造能力)月産 700t (DCマシン) 7台

内、第3期工事 鑄造工場 4,750㎡ 加工工場 3,000㎡
増強能力月産 200t(DCマシン2台) 隣接の預留地より、20,500㎡を取得



地鎮祭の様子(2012年10月)

広州アーレスティ新工場建設

広州阿雷斯提汽车配件有限公司

2011年に取得した隣接地へ新工場を建設



新工場工事の様子(2012年11月時点)



新工場工事の様子(2013年1月時点)

■新工場建設第1期工事

2012年 5月新工場建設着工
2013年 4月竣工予定

■工場面積

第1工場
土地 43,000㎡ 建屋 26,300㎡
第2工場
土地 17,700㎡ 建屋 10,400㎡
新工場
土地 21,100㎡ 建屋 16,000㎡(第1期)
建屋 8,700㎡(第2期)

※ 2月着工予定だった第2期工事を延期
(第2期工事着工は需要動向を見極めてから)

(鑄造能力) 月産 2600t (DCマシン 31台)



第1工場、新工場の全景(2013年1月時点)



広州アーレスティ隣接地の
新工場完成予想図

借りている3つの工場を
新工場に集約し物流等
の効率化を図る(既に1
つは返却済)

第3四半期決算概況 及び今期見通しについて



2013年3月期第3四半期 決算のポイント

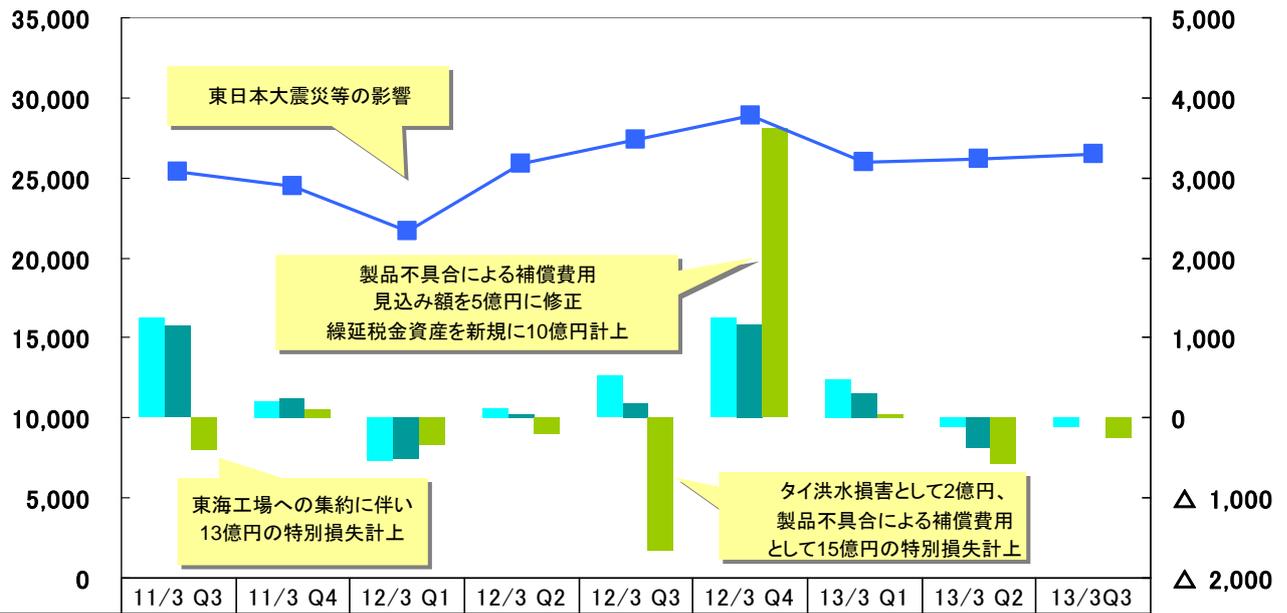
(単位:百万円)

| | 2012年3月期 第3四半期 | | 2013年3月期 第3四半期 | | 前年同期比 増減 | 前年 同期比 |
|--------|-------------------|-------|-------------------|-------|-------------|-----------|
| 売上高 | 74,940 | 100% | 78,569 | 100% | 3,629 | +4.8% |
| 営業利益 | 109 | +0.1% | 261 | 0.3% | 152 | +139.4% |
| 経常利益 | △ 280 | △0.4% | △ 65 | △0.1% | 215 | - |
| 四半期純利益 | △ 2,205 | △2.9% | △ 780 | △1.0% | 1,425 | - |
| EPS | △ 102.32 | | △ 36.21 | | 66.11 | - |

- ◆ 売上高:国内ではエコカー補助金終了後の反動影響等により前年同期比で販売量が減少するも、アメリカでの東日本大震災で落ち込んだ受注の回復等による北米での販売量増加、広州工場・インド工場での新規品の量産本格化、合肥工場の量産稼働開始等によるアジアでの販売量の増加により、売上高は785億円(前年同四半期比4.8%増)となった。
- ◆ 営業利益:メキシコの増産対応遅れ挽回費用の削減、アメリカでの販売量増の効果による北米での増益、中国広州での販売量増による増益があったものの、インド及び中国合肥への先行投資による固定費増、国内での販売量減少の影響及び東海工場集約の一時的な費用増等により営業利益は2億6千万円と微増に留まった。
- ◆ 前年第3四半期では、製品保証費用として特別損失15億円(最終的には5億円に)、タイの洪水災害による特別損失2億円を計上。

連結決算概要(四半期別)

単位：百万円



| | 11/3 Q3 | 11/3 Q4 | 12/3 Q1 | 12/3 Q2 | 12/3 Q3 | 12/3 Q4 | 13/3 Q1 | 13/3 Q2 | 13/3 Q3 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 営業損益 | 1,254 | 207 | △ 538 | 117 | 530 | 1,257 | 487 | △ 117 | △ 109 |
| 経常損益 | 1,153 | 245 | △ 515 | 45 | 190 | 1,168 | 300 | △ 367 | 2 |
| 当期純損益 | △ 389 | 115 | △ 345 | △ 202 | △ 1,658 | 3,625 | 49 | △ 573 | △ 256 |
| 売上高(左軸) | 25,366 | 24,510 | 21,660 | 25,917 | 27,363 | 28,860 | 25,937 | 26,157 | 26,475 |

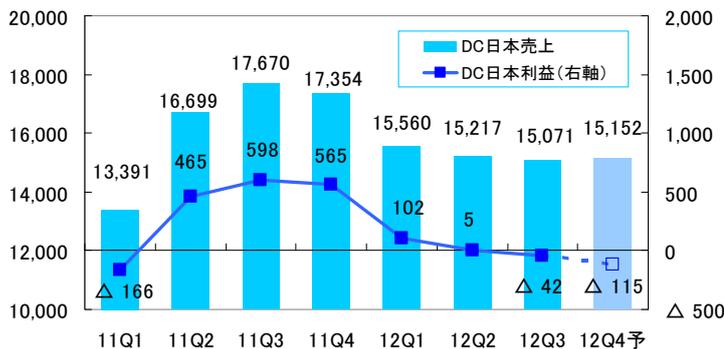
今期見通し

(単位：百万円)

| | 2012年3月期 実績 | 2013年3月期 10/29修正計画 | 2013年3月期 2/7修正計画 | 対10/29計画 増減 | 対10/29計画 増減率 |
|----------|----------------|-----------------------|---------------------|----------------|-----------------|
| 売上高 | 103,800 | 107,700 | 105,500 | △ 2,200 | △2.0% |
| ダイカスト日本 | 65,114 | 63,900 | 61,000 | △ 2,900 | △4.5% |
| ダイカスト北米 | 18,761 | 21,400 | 22,500 | 1,100 | 5.1% |
| ダイカストアジア | 13,723 | 17,100 | 16,600 | △ 500 | △ 2.9% |
| アルミニウム | 3,744 | 3,800 | 3,700 | △ 100 | △ 2.6% |
| 完成品 | 2,455 | 1,500 | 1,700 | 200 | 13.3% |
| 営業利益 | 1,366 | 750 | 150 | △ 600 | △ 80.0% |
| ダイカスト日本 | 1,463 | 1,000 | △ 50 | △ 1,050 | △105.0% |
| ダイカスト北米 | 314 | 400 | 700 | 300 | 75.0% |
| ダイカストアジア | △504 | △750 | △550 | 200 | — |
| アルミニウム | △42 | 100 | 50 | △ 50 | △ 50.0% |
| 完成品 | 72 | 0 | 0 | 0 | — |
| 経常利益 | 888 | △50 | △350 | △ 300 | — |
| 当期純利益 | 1,420 | △450 | △1,300 | △ 850 | — |

決算概要 ダイカスト日本(11Q3→12Q3)

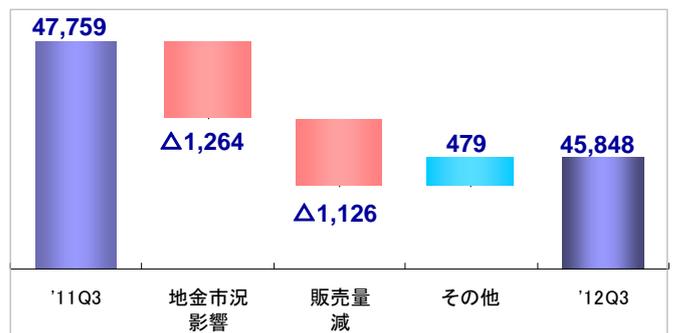
ダイカスト日本売上高/セグメント利益の推移 (百万円)



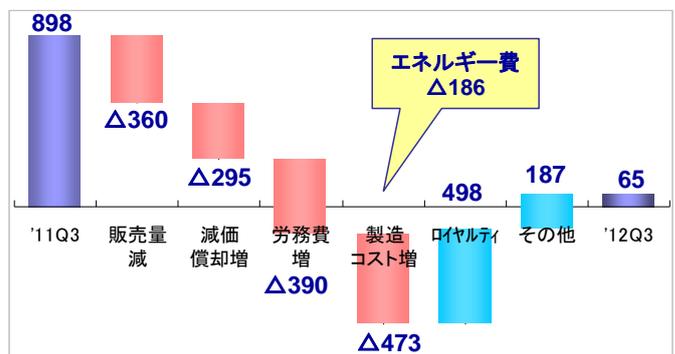
前年の東日本大震災からの挽回生産水準からの減少に加えて、エコカー補助金終了の反動や自動車輸出の減少等の影響及び地金市況の影響により売上高は4.0%減少。

セグメント利益は、売上高減少の影響、新規製品対応の設備投資に伴う減価償却費の増加、前年下期水準からの売上減少を見越した原価低減の進捗遅れ、東海工場の集約に伴う一時的な費用増の影響等により65百万円に留まった。

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



今期見通し(ダイカスト日本)

(単位:百万円)

| | 2012年3月期 実績 | 2013年3月期 10/29修正計画 | 2013年3月期 2/7修正計画 | 対10/29計画 増減 | 対10/29計画 増減率 |
|---------|----------------|-----------------------|---------------------|----------------|-----------------|
| 売上高 | 103,800 | 107,700 | 105,500 | △2,200 | △2.0% |
| ダイカスト日本 | 65,114 | 63,900 | 61,000 | △2,900 | △4.5% |
| 営業利益 | 1,366 | 750 | 150 | △600 | △80.0% |
| ダイカスト日本 | 1,463 | 1,000 | △50 | △1,050 | △105.0% |

(単位:百万円)

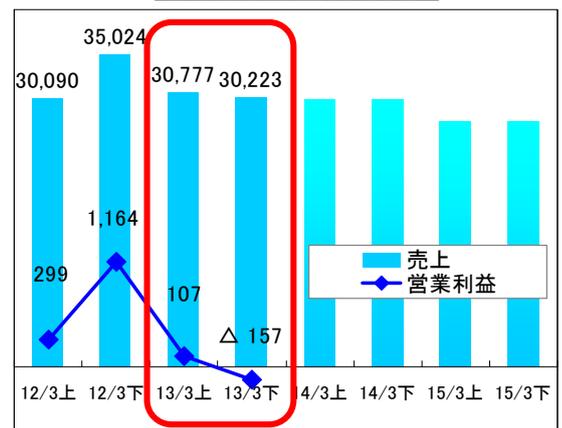
通期見通し

主として、エコカー補助金終了の反動影響が想定よりも大きかったことから前回計画から売上高は29億円減(3Q:14億円減少)。前回(10/29)計画に基づく収益改善計画の進捗は、概ね計画通り進捗しているものの、主に売上高減少の影響と中国子会社からのロイヤリティ料率変更契約の遅れからセグメント利益は10.5億円減(3Q:3.5億円減。ロイヤリティの影響は4Q)。

来期以降

今期末にて浜松地区での生産を終了し、東海工場統合が完了する。減少する国内需要に対して統合効果及び収益改善施策により収益を確保する。

ダイカスト日本 実績と計画



決算概要 ダイカスト北米(11Q3→12Q3)

ダイカスト北米売上高/セグメント利益の推移 (百万円)

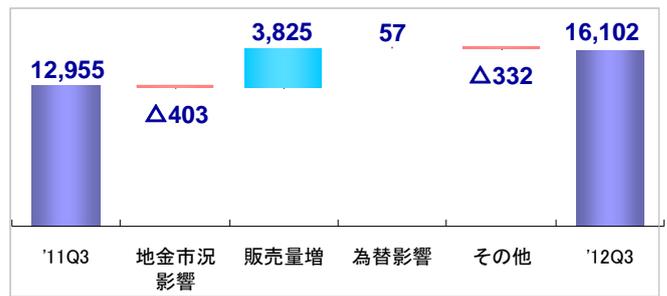


アメリカ: 4Q以降の増産に備えた3Qでの先行的な固定費増に伴う一時的な利益率の低下はあるものの、前年同期比では、販売量の増加に伴い利益も増加し、業績は堅調に推移。

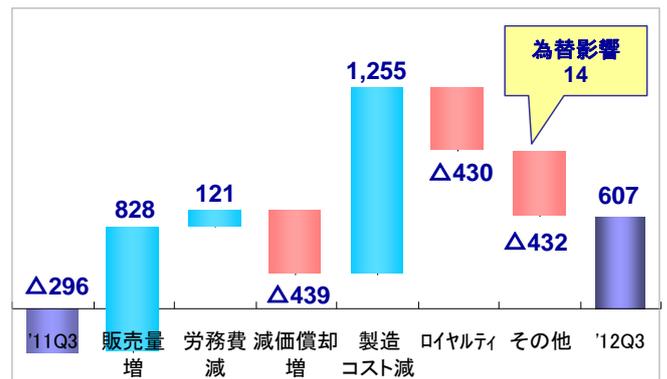
メキシコ: 10Q4から発生していた生産対応の遅れの挽回に伴う費用を削減したこと等により、前年同期比ではセグメント損失を大幅に改善。今期の新規受注品の機種変更に伴う付加価値減に対応した原価低減の進捗を早め、収益性を高めることが課題。

平均レート(11Q3→12Q3)
米\$ 78.96→80.43
メシコ(米\$)80.33→79.07

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



今期見通し(ダイカスト北米)

(単位:百万円)

| | 2012年3月期 実績 | 2013年3月期 10/29修正計画 | 2013年3月期 2/7修正計画 | 対10/29計画 増減 | 対10/29計画 増減率 |
|---------|----------------|-----------------------|---------------------|----------------|-----------------|
| 売上高 | 103,800 | 107,700 | 105,500 | △ 2,200 | △2.0% |
| ダイカスト北米 | 18,761 | 21,400 | 22,500 | 1,100 | 5.1% |
| 営業利益 | 1,366 | 750 | 150 | △ 600 | △ 80.0% |
| ダイカスト北米 | 314 | 400 | 700 | 300 | 75.0% |

通期見通し

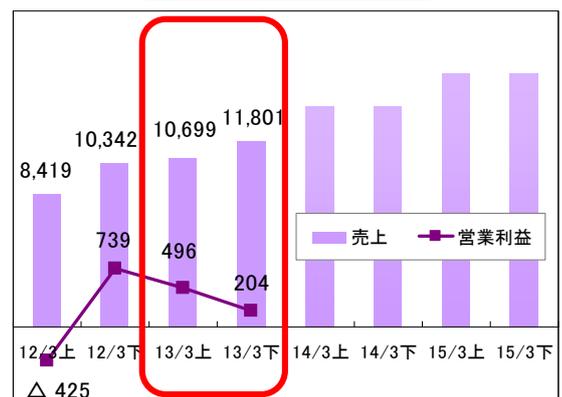
主にアメリカでの自動車販売好調を受けての受注増によるものと、為替の想定レートの変更による影響により売上高は11億円増(半分程度が為替影響)。主にアメリカでの販売量増加に伴う効果によりセグメント利益は3億円増。

来期以降

売上高の伸びによる効果及びメキシコの費用改善計画により、収益性を改善していく。

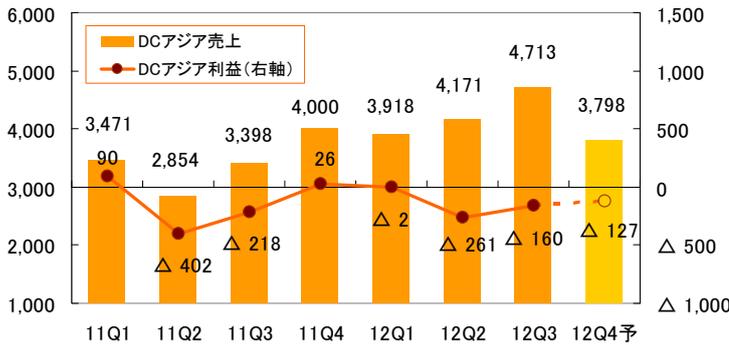
ダイカスト北米 実績と計画

(単位:百万円)



決算概要 ダイカストアジア(11Q3→12Q3)

ダイカストアジア売上高/セグメント利益の推移 (百万円)



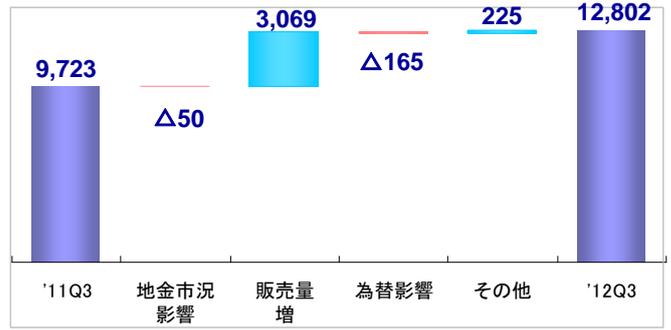
中国: 広州工場での新規製品の量産本格化、合肥工場での稼働開始により売上高は増加。セグメント利益については、合肥工場での先行投資による固定費増による減益を広州工場の増収に伴う増益で一定程度補った。

(ロイヤルティ料率は従来どおり)

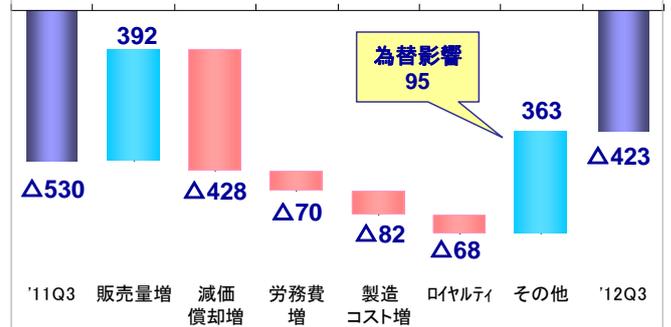
インド: 売上高は増加するも想定を下回っており、減価償却費負担増、エネルギー費増等の影響で減益。

平均レート(11Q3→12Q3)
 人民元 12.35→12.51
 インドル比 1.69→1.48

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



今期見通し(ダイカストアジア)

(単位:百万円)

| | 2012年3月期 実績 | 2013年3月期 10/29修正計画 | 2013年3月期 2/7修正計画 | 対10/29計画 増減 | 対10/29計画 増減率 |
|----------|----------------|-----------------------|---------------------|----------------|-----------------|
| 売上高 | 103,800 | 107,700 | 105,500 | △ 2,200 | △2.0% |
| ダイカストアジア | 13,723 | 17,100 | 16,600 | △ 500 | △ 2.9% |
| 営業利益 | 1,366 | 750 | 150 | △ 600 | △ 80.0% |
| ダイカストアジア | △504 | △750 | △550 | 200 | 26.7% |

通期見通し

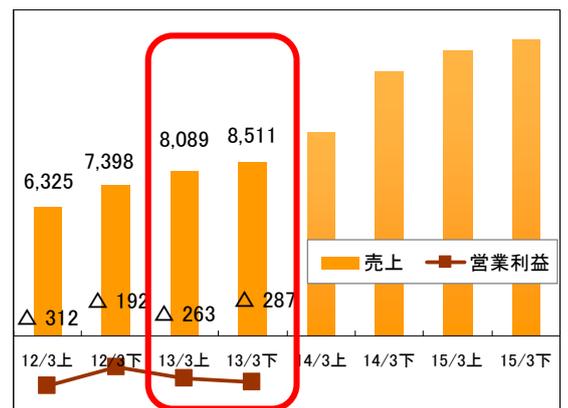
インドの売上が前回計画よりも回復する見込みであるものの、中国における12/10月以降の日系自動車販売減が想定以上となり(中国の売上高は8億円減少)、アジアの売上高は5億円減少。中国の売上減少が想定以上ではあるが、これに応じた広州工場での費用削減等によりセグメント利益は2億円改善。

来期以降

中国での受注回復が進んでおり、インドでの増産も含めて収益を確保する。

ダイカストアジア 実績と計画

(単位:百万円)



決算概要 アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

| | | 2012年3月期 第3四半期 | 2013年3月期 第3四半期 | 前年同期比 増減 | 前年 同期比 |
|--------------|------|-------------------|-------------------|-------------|-----------|
| アルミニウム 事業 | 売上 | 2,877 100% | 2,776 100% | △101 | △3.5% |
| | 営業利益 | △18 △0.6% | 48 1.7% | 66 | - |
| 完成品事業 | 売上 | 1,624 100% | 1,039 100% | △585 | △36.0% |
| | 営業利益 | 38 2.3% | △35 △3.4% | △73 | △192.1% |

アルミニウム事業： 二次合金地金の出荷量が前年半期比で10.0%増となったものの、円高やLME市況低迷の影響によって価格が抑えられたことから、売上高は3.5%減となった。利益は、使用原材料を含む原価低減活動を図ったことにより48百万円となった。

完成品事業： 国内シェアは増加したものの、主要販売先である半導体関連企業の設備投資と通信会社のデータセンター向け物件の低調により、売上高は36%減となった。損益は、受注減少の影響等により、35百万円の損失となった。

決算概要 貸借対照表

(単位：百万円)

| | 2012年3月期 | 2013年3月期 第3四半期 | 増減 | |
|--------|----------|-------------------|---------|--|
| 流動資産 | 44,486 | 37,827 | △ 6,659 | ◆ 現金及び預金の減少、売上債権の減少(債権流動化含む)により流動資産が減少 |
| 現預金 | 7,358 | 5,284 | △ 2,074 | |
| 売上債権 | 24,541 | 19,333 | △ 5,208 | |
| 棚卸資産 | 8,636 | 9,419 | 783 | |
| 固定資産 | 60,721 | 65,256 | 4,535 | ◆ 海外での事業拡大投資により有形固定資産が増加 |
| 有形固定資産 | 54,135 | 58,468 | 4,333 | |
| 資産合計 | 105,208 | 103,084 | △ 2,124 | |
| 負債合計 | 69,794 | 68,094 | △ 1,700 | ◆ 営業CFを超える投資資金を現預金の減少と借入金で調達 |
| 買入債務 | 18,653 | 16,291 | △ 2,362 | |
| 長短借入金 | 33,348 | 34,843 | 1,495 | |
| 純資産合計 | 35,414 | 34,989 | △ 425 | |

収益改善に向けた取り組み

◆ 収益改善(原価低減)計画の見直しと実行

- ① 生産性向上施策の展開
- ② 海外における増産効果
- ③ 東海工場集約による統合効果
- ④ 人材育成

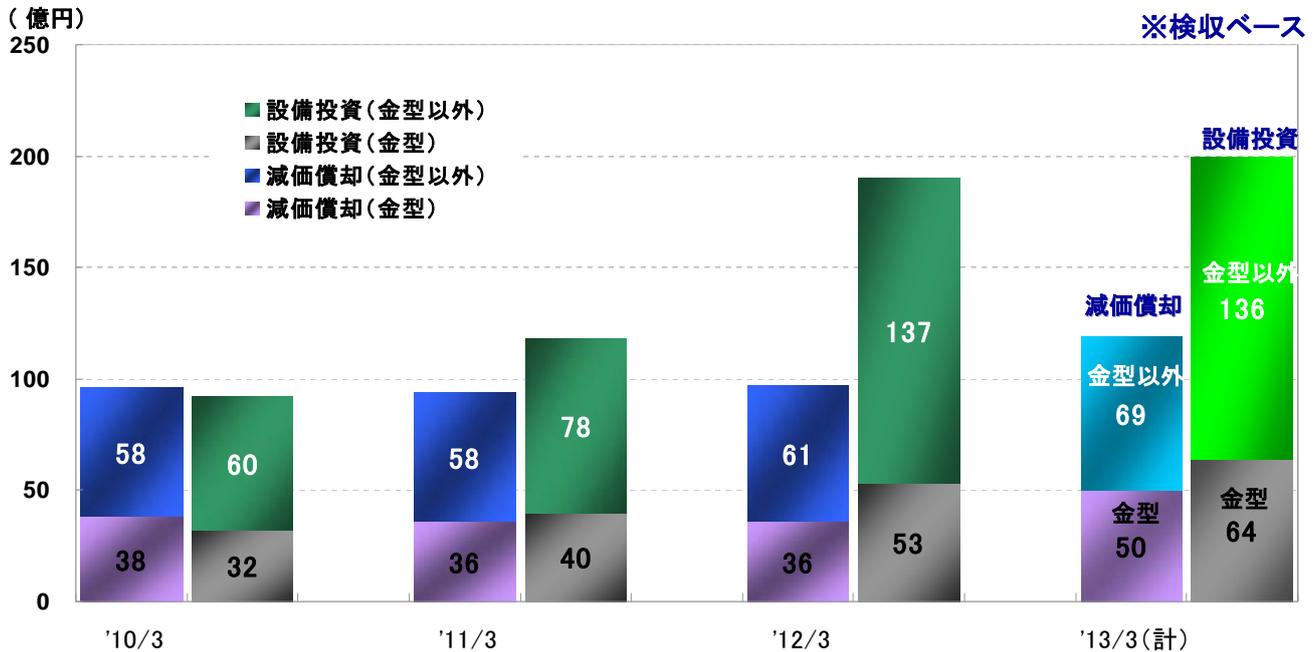
配当の状況

| (単位:円) | 09年3月期 | 10年3月期 | 11年3月期 | 12年3月期 | 13年3月期 予想(2/7) |
|--------------|---------|--------|--------|--------|-------------------|
| 1株当たり配当金 | | | | | |
| (年間) | 11 | 5 | 12 | 6 | 3 |
| 中間配当 | 11 | - | 6 | 3 | 3 |
| 期末配当 | - | 5 | 6 | 3 | - |
| 一株当たり純損益(連結) | △ 313.8 | △ 2.8 | 68.8 | 65.9 | △ 60.28 |
| 配当性向(連結) | - | - | 17.4% | 9.1% | - |

- ◆ 今期末配当は、通期業績見通しを踏まえ総合的に判断して無配を予想
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

◆ 来期以降の設備投資は、今期水準よりも抑制の方向



Casting Our Eyes
on the Future

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-5332-6004

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。